

徳川慶勝写「宝生流能造物図絵」の紹介と翻刻（二）

飯塚 恵理人*

はじめに

前稿^{〔1〕}では、名古屋蓬左文庫所蔵の「宝生流能造物図絵」の前半の翻刻を掲載した。本稿では、その続きである（42）《舍利》以降、最後（91）《浦寫》までの翻刻を掲載する。「宝生流能造物図絵」の翻刻はこれで完結である。本についての紹介やその書写者の徳川慶勝については前稿を参照されたい。曲名一覧は以下の通りである。

（1-1）《高砂》、（2）《弓八幡》、（1-2）《高砂》、（3）《氷室》、（4）《志賀》、（5-1）《右近》、（5-2）《右近》、（6）《兼平》、（7）《絵馬》、（8）《三山》、（9）《西王母》、（10）《難波》、（11）《白髭》、（12）《九世戸》、（13）《敦盛》、（14）《生田敦盛》、（15）《定家》、（16）《加茂》、（17）《通盛》、（18）《檀垣》、（19）《野々宮》、（20）《半蔀》、（21）《竹生嶋》、（22）《嵐山》、（23）《松風》、（24）《葛城》、（25）《俊成忠度》、（26）《住吉詣》、（27）《錦木》、（28）《西行桜》、（29）《遊行柳》、（30）《江口》、（31）《羽衣》、（32）《雲雀山》、（33）《小原御幸》、（34）《藤》、（35）《小蝶》、（36）《井筒》、（37）《草紙洗》、

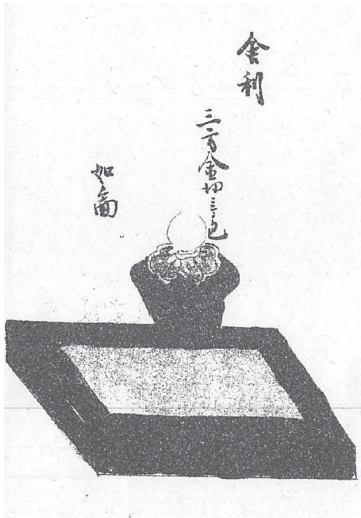
（38）《楊貴妃》、（39）《梅枝》、（40）《小鍛冶》、（41）《調伏曾我》（こまでを前稿で扱った）（42）《舍利》、（43）《金札》、（44）《伏見》、（45）《芦刈》、（46）《小督》、（47）《車僧》、（48-1）《玉の井》、（48-2）《同（玉の井）》、（49）《道明寺》、（50）《殺生石》、（51）《唐船》、（52）《鉢木》、（53）《石橋》、（54）《三笑》、（55）《雨月》、（56）《景清》、（57）《国栖》、（58）《綾鼓》、（59-1）《三井寺》、（60）《三輪》、（61）《枕慈童》、（62）《道成》、（63）《籠太鼓》、（64）《歌占》、（65）《照君》、（66）《安宅》、（67）《紅葉狩》、（68）《加茂物狂》、（69）《海人》、（70-1）《高野物狂》、（59-2）《三井寺》、（71）《百萬》、（72）《藤栄》、（73）《蟬丸》、（74）《放下僧》、（70-2）《高野物狂》、（75-1）《輪藏》、（75-2）《同（輪藏）》、（76）《鳥追》、（77）《鶏龍田》、（78）《鉄輪》、（79-1）《黒塚》、（79-2）《同（黒塚）》、（80）《大蛇》、（81）《竹之雪》、（82）《土蜘蛛》、（83）《谷行》、（84）《一角仙人》、（85）《大江山》、（86）《半蔀 立花》、（87）《項羽》、（88）《山姥》、（89）《木賊》、（90）《呉服》、（91）《浦寫》

《翻刻の凡例》

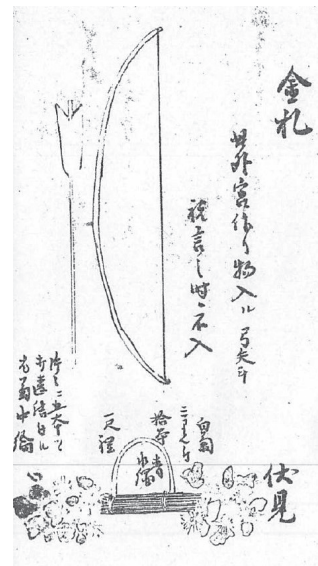
底本に忠実に翻刻することを心がけたが、読解の便宜を考えて以下の点について改めた。

- 1 旧字体は原則として新字体に改め、私に句読点を施した。本文の改行は適時省略した。
- 2 能の曲名は《》で囲んだ。《》の上半角算数字は、私に付けた曲番号である。
- 3 底本の書き入れは（ ）で囲み、その書き入れの該当部分に示した。また墨消子となっている部分は【 】で囲み、■は判読不可の字を示す。
- 4 目録曲後の（○頁終）は蓬左文庫所蔵の底本のコピーの頁数であり、「○丁裏表」の表記は用いない。

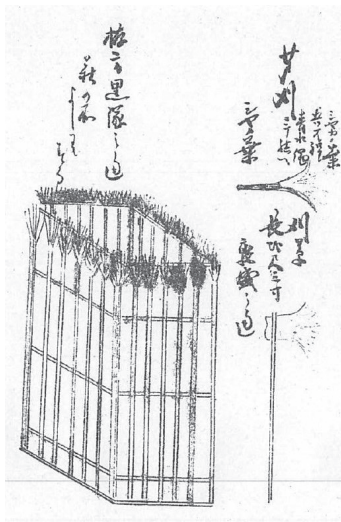
《翻刻》



(42) 《舍利》 三万金切ニテ包如圖

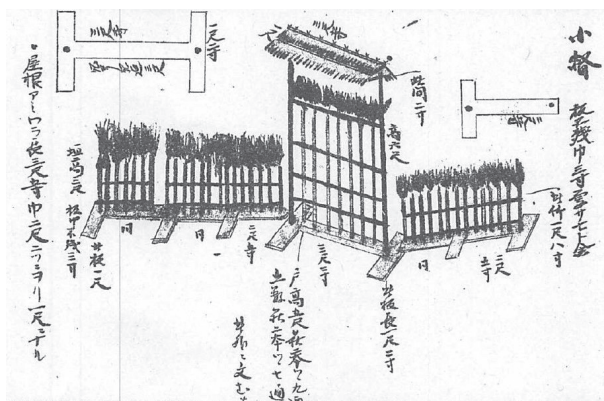


(43) 《金札》 此外宮作り物入ル 弓矢ヲ祝言之時ハ不入
(44) 《伏見》 片々に五本ツ、打違結付ル 尤菊中輪 白菊三りん
付拾本 一尺程 青水綱

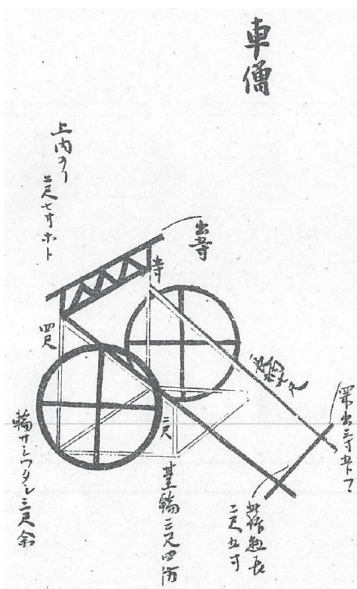


(45) 《刈刈》 拵方《黒塚》之通 萩の所よしにもる シヤカノ葉
五マイ程青水綱ニテ結へ 刈草長尺三寸《敦盛》之通

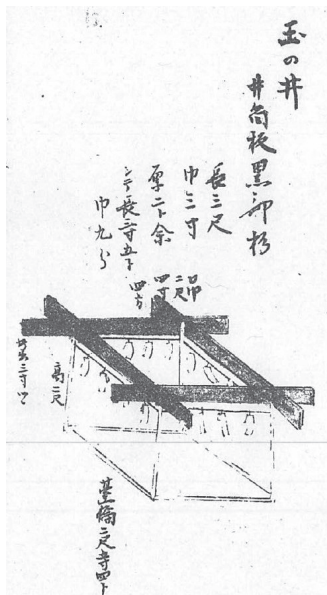
(46) 《小督》 板工段巾三寸厚サ七分余 此竹一尺八寸 二尺五寸
同 此板長一尺二寸 此間二寸 高六尺 三尺五寸 三尺二寸戸高
五尺藪二本ツツ九通立数藪二本ツツ七通 一尺二寸 三尺二寸
此より足まで三尺 二尺五寸 同 同 此板一尺 垣高二尺 板巾
不残三寸 ・ 屋根アミワラ長三尺五寸巾二尺二ツニヤリ一尺二ナル



(47) 《車僧》 上内ヲリ二尺七寸ホト 出五寸 五寸 四尺 長柄
七尺 二尺 台輪三尺四方 輪サシワタシ三尺余 此所出三寸五分
ツツ 此柄惣長二尺五寸



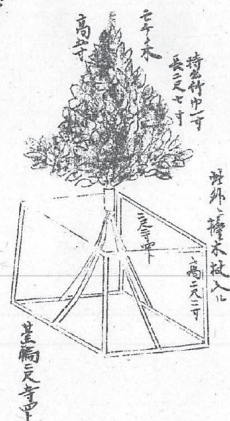
(48-1) 《玉の井》 井筒板黒部杉長三尺巾三寸厚二分余シテ長三寸五分巾九分 吊二尺四寸四方高二尺 此出三寸ツツ 台輪二尺五寸四分 (二十四頁終)



同

道明寺

作り物モチノ木同断
外ニスキはうき



(48) 《同(玉の井)》 持出竹巾一寸 長二尺七寸 モチノ木

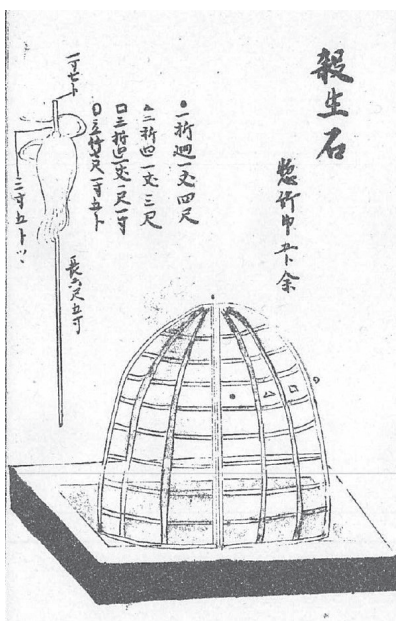
高五寸 此外ニ撞木杖入ル 高二尺二寸 二尺二寸四分 台輪二尺

五寸四分

(49) 《道明寺》 作り物モチノ木同断 外ニスキはうき

殺生石

惣竹巾下余



(50) 《殺生石》 一寸七分長六尺五寸三寸五分ツツ ● 一折廻一丈

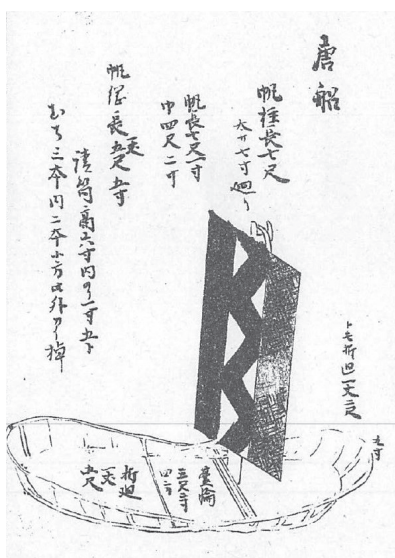
四尺
五分

▲二折廻一丈三尺 □三折廻一丈一尺一寸 ○立竹七尺一寸

四

(二十五頁終)

唐船



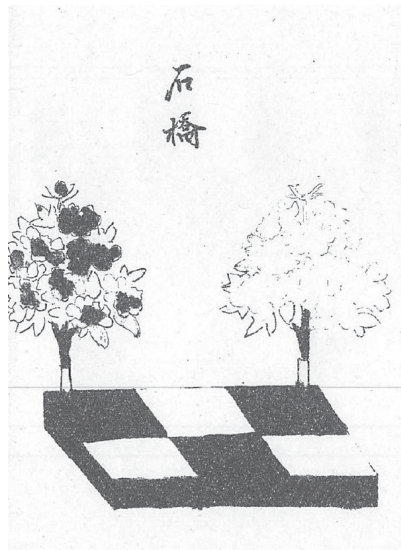
(51) 《唐船》 帆柱長七尺太サ七寸廻り 帆長七尺一寸 巾四尺二寸
帆綱長一丈五尺五寸 ■筒高六寸内のり一寸五分 むち三本内二
本小方此外カイ棹 トモ折廻一丈二尺 九寸 台輪三尺二寸四方
折廻一丈五尺

(52) 《鉢木》 松高三尺程 梅見合枝付桜見合 此外二杖文 文脇方へ 杖狂言方へ ■ 上ノワ長二尺四寸五分横一尺二寸五分 台惣高二尺五寸 二尺 中輪長二尺二寸五分横一尺二寸五分 二尺四寸 一尺四寸

(二十六頁終)



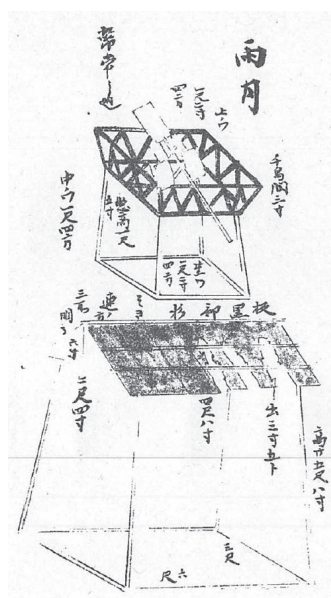
(53) 《石橋》



(54) 《三笑》 此外二一疊台入ル ■ シタシ茅屋左ノ通ニコしらへもちの木にてふく 当時左の ■ 高五尺八寸 垣高三尺 台輪三尺 四方 金元結 此菊中りん



(二十七頁終)

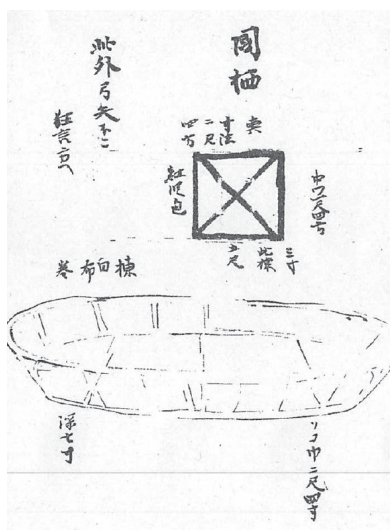


(55)《雨月》 上ノワ一尺二寸四方 幣常之通 千鳥間三寸惣高一尺五寸 中ワ一尺四方 台ワ一尺二寸四方 板黒部杉そき連ノ方三所開る六寸高サ五尺八寸出三寸五分四尺八寸二尺四寸 五尺 六尺



(56)《景清》 かつら輪式尺五寸四方竹巾一寸 長三寸五分 わらや拵よふ《生田敦盛》ノとふり 五尺八寸 杖掛仕手右ノ方 竹巾五分

(二十八頁終)



(57)《国栖》 此外弓矢ほこ狂言方へ 興寸法二尺四方 中ワ一尺四方 紅段包 三寸 此棟五尺 棟白布布巻 ソコ巾二尺四寸 浮七寸



(58)《綾鼓》 鼓仕手むかへ左之方二つける 此外萩はうき《玉の井》とちの木同断

(二十九頁終)

三井寺

棚下ノ輪（足五寸四方上輪、又五寸四方中ノ輪、又五寸四方）

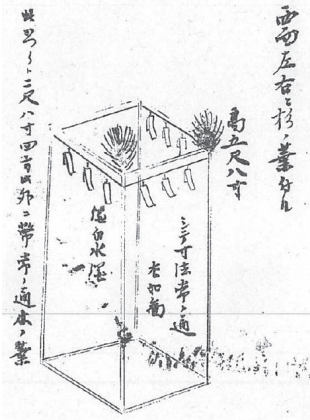


(59) 《三井寺》 棚下ノ輪一尺五寸四方上ノ輪一尺七寸四方中ノ輪一尺一寸四方 やねかつら輪一尺五寸四方拵様宮之通 出三寸五分 出二寸五分 ムネ高三寸五分 柱竹高六尺 此綱ほうし 台輪二尺七寸四方

三輪

西面五右ノ杉ノ葉付ル

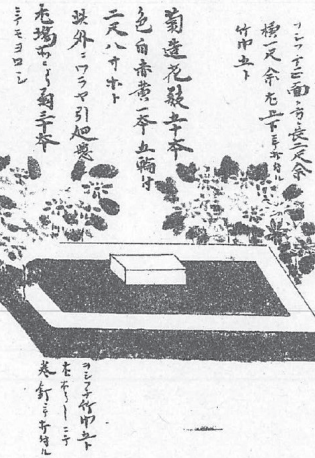
高五尺八寸



(60) 《三輪》 正面左右ニ杉ノ葉付ル 此かつらハ二尺八寸四方 此外ニ幣常ノ通木ノ葉 高五尺八寸 シテ寸法常ノ通 尤如図 綱 白水綱

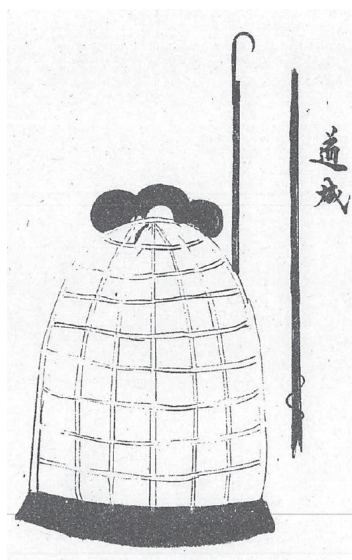
(三十頁終)

枕蓑重

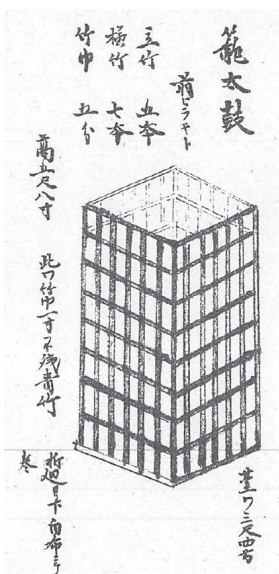


(61) 《枕蓑重》 コシワキ正面ノ方長二尺余横一尺余尤上下ニテ打付ル 竹巾五分 菊造花数五十本 色白赤黄一本五輪付二尺八寸ホト 此外ニワラヤ引廻懸 尤場所ニより菊三十本ニテモヨロシ

(62) 《道成》

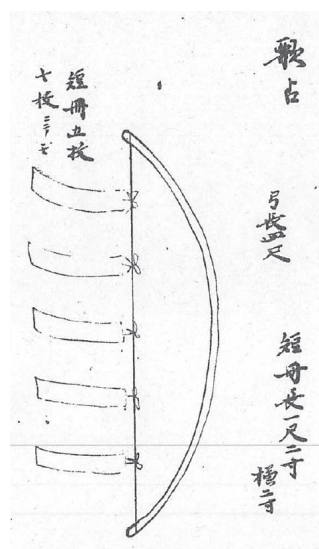


(三十一頁終)

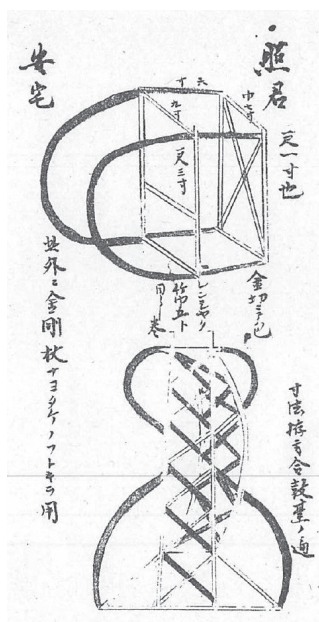


(63) 《籠太鼓》 前ヒラキト立竹五本 横竹七本 竹巾五分 高五尺八寸 此ワ竹巾一寸不残青竹 折廻ヨリ下白布ニテ巻 台ワ三尺四方

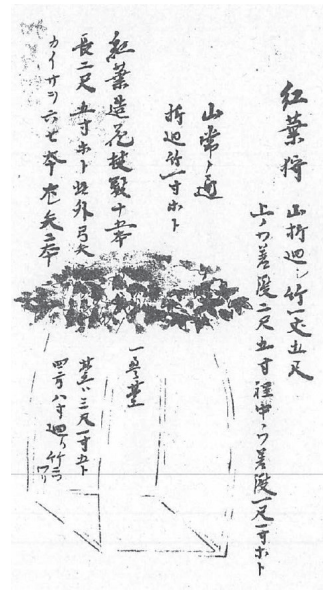
モ (64) 《歌占》 弓長四尺 短冊長一尺二寸横二寸短冊五枚十枚ニテ



(三十二頁終)



(65) 《照君》 一尺一寸也 六寸 巾七寸 九寸 一尺三寸 金切ニテ包 レンシヤク竹巾五分ほうし巻 寸法拵方合鼓台ノ通
(66) 《安宅》 此外ニ金剛杖ナヨタケノフトキヲ用



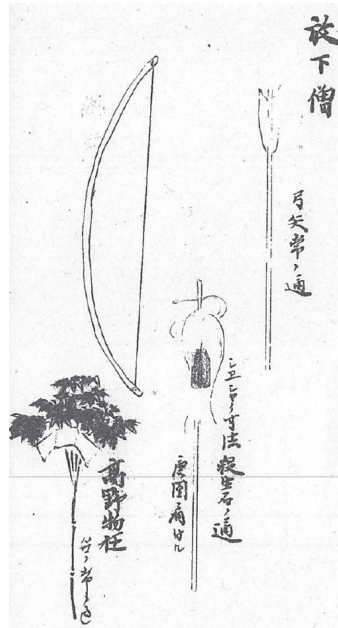
(67) 《紅葉狩》 山折廻竹一丈五尺 上ノワ差渡二尺五寸程中ノワ
差渡一尺一寸ホト 山常の通 折廻竹一寸ホト 紅葉造花枝数十五
本長二尺五寸ホト此外弓矢カイサヲ六七本尖矢二本 一疊台 台ハ
三尺一寸五分四方八寸廻り竹二つワリ

(三十三頁終)



(68) 《加茂物狂》 笹常之通 あふひかつら 卷数五筋 長二尺ホ
ド

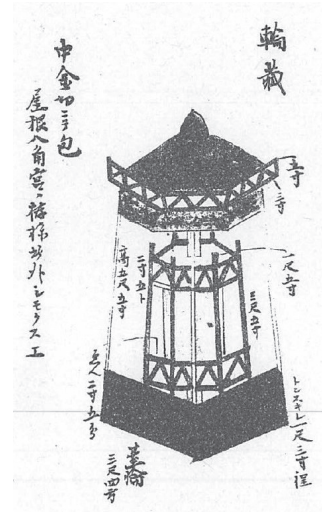
- (69) 《海人》 ミルメ杉葉 紐水繩如図 常之通
- (70-1) 《高野物狂》 文付
- (59-2) 《三井寺》
- (71) 《百萬》
- (72) 《藤栄》 五六本
- (73) 《蟬丸》



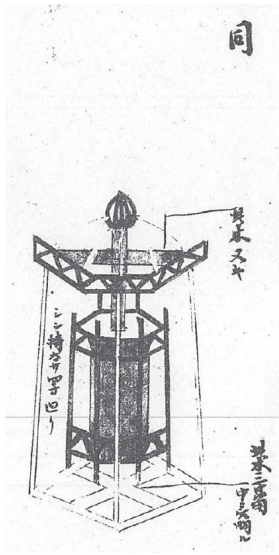
- (74) 《放下僧》 弓矢常ノ通 シユシヤウ寸法《殺生石》ノ通 唐
团扇付ル
- (70-2) 《高野物狂》 笹常之通

(三十四頁終)

(75-1) 《輪蔵》 中金切ニテ包屋根八角宮ノ拵様此外シモクスエ
五寸 三寸 一尺五寸 三尺五寸 二寸五分 高五尺五寸 トン
スキレ一尺三寸程 ゑん二寸五分 台輪三尺四方



(75-2) 《同(輪蔵)》 此木スキ 此木三本用中ニ窓明ル シン棒
太サ四寸廻り

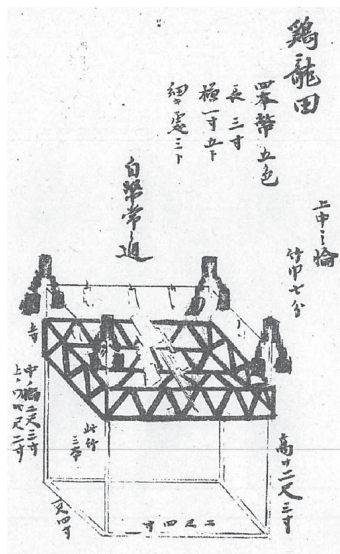


(二十五頁終)

(76) 《鳥追》 舟常之通 笹造花也 ナルコ長五寸タテ三寸地金帛
竹銀ハク 高四尺三寸 此通 ほうし 六寸

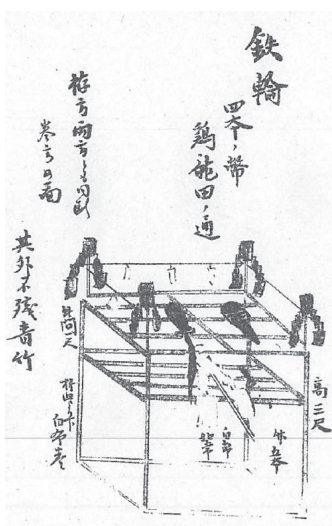


(77) 《鶏龍田》 四本幣五色長三寸横一寸五分細キ處三分 白幣常
之通 上中之輪竹巾七分 高サ二尺三寸 此竹三本 五寸 中ノ輪

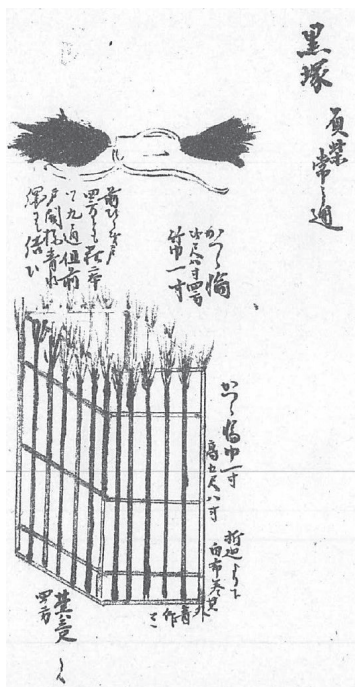


二尺三寸 上ノワ四尺二寸 二尺四寸 一尺四寸

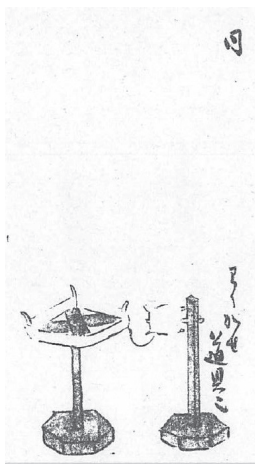
（三十六頁終）



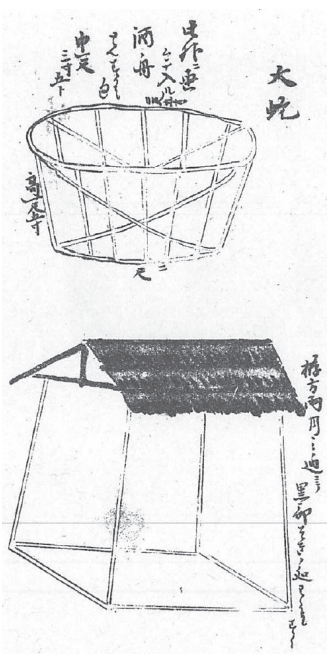
(78) 《鉄輪》 四本ノ脚 《鶏籠田》ノ通 拵方両方とも同断 卷高
如図 其外不残青竹 此間一尺 高三尺 竹五本 白幣如常 折廻
より下白布卷



(79-1) 《黒塚》 負柴常之通 かつら輪式尺八寸四方竹巾一寸 前
ひらき戸 四方とも萩二本ツツ九通但前戸開様青水綱にて結い かつ
ら輪巾一寸高五尺八寸 折廻より下白布卷此外青竹 ■ 台三尺四方
(三十七頁終)



(79-2) 《同(黒塚)》 わくかせ道具也



(80) 《大蛇》 此外二輿ムチ入ル酒舟はんせうも包巾一尺三寸五分 高
一尺五寸 二尺 拵方《雨月》之通ニテ黒部すきの廻りわらにてする
(三十八頁終)

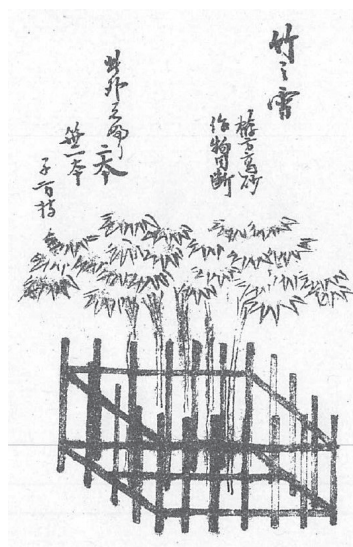
(81)

《竹之雪》

拵方

《高砂》

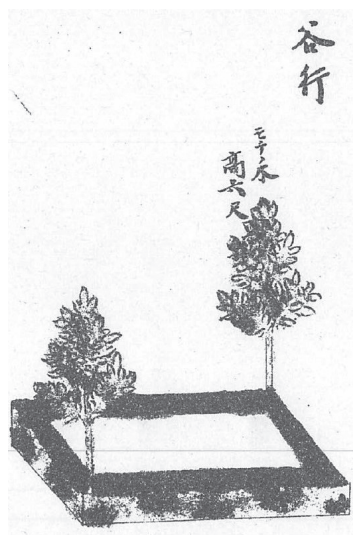
作物同断此外糸ふり二本笹一本子方持



(83)

《谷行》

モチノ木高六尺



一二

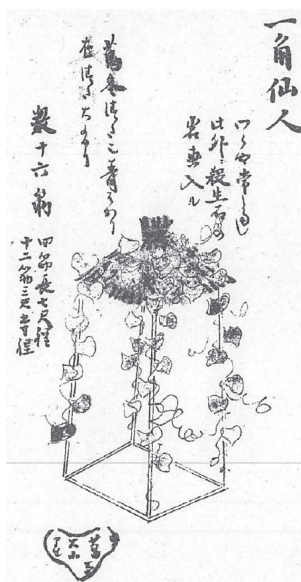
土蜘蛛



(82) 《土蜘蛛》 山拵方常之通 巢面の内紙尤タテ紙巾五分三方二ハ
ル タテ五筋横七通程見合此外持巢入五ツ程 ミの紙巾一分中二あ
たり入尤タテ紙也

(三十九頁終)

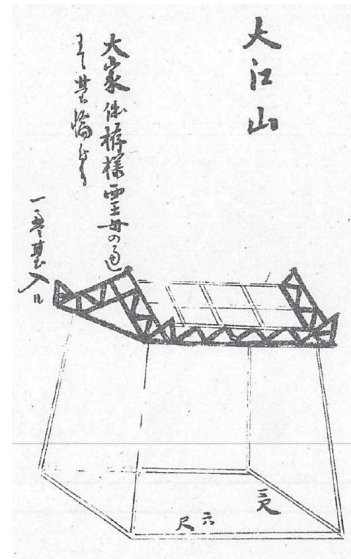
一角仙人



(84) 《一角仙人》 わらや常之通 此外《殺生石》の岩興入ル 葛
冬つた也青そなり 右つた大小アリ 数十六筋 四筋長七尺程
十二筋三尺五寸程 葛は大小ませ

(四十頁終)

(85)《大江山》 大家体拵様《西王母》の通にて台輪付る 一疊台
入ル 三尺 六尺

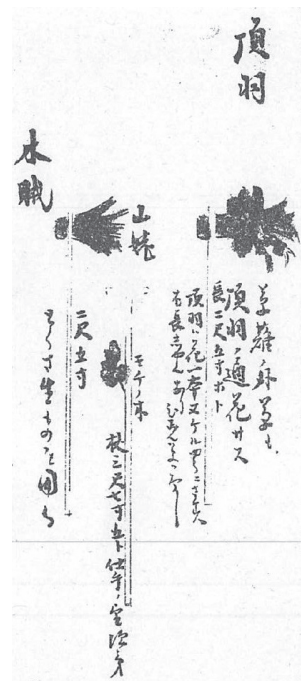


(86)《半部 立花》 老松 若松 紫花 大菊赤・黄 小菊ひわの
木 杜若 惣高四尺七寸 高一尺三寸五分 下地銀箔置

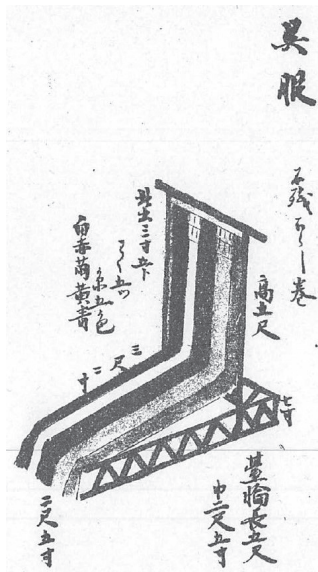


(四十一頁終)

(87)《項羽》 草薙ノ好草も《項羽》ノ通花サス 長二尺五寸ホド
《項羽》ハ花一本ヌケルやうニサス 尤長たんあり尤ひしん草ハ
なし



(88)《山姥》 モチノ木杖三尺七寸五分仕手ノ望次第
(89)《木賊》 二尺五寸、とくさ生ものを用る



(90)《呉服》 不残ほうし巻 高五尺 此出三寸五分 わく五つ糸
五色白赤萌黄青 三尺二寸 台輪長五尺巾二尺五寸 二尺五寸

(四十二頁終)

(91)《浦寫》 当時不用

盛斎写(印) 安政五年夏五月廿四日

〔裏表紙〕



(四十三頁終)

終わりに

前稿と本稿で、名古屋市蓬左文庫所蔵の徳川慶勝書写の「宝生流能造物図絵」の翻刻を行った。読みやすさを考えて一曲ごとにその図と図内の語の翻刻を並べた。図中の語は散らばっているため、紙面の関係から翻刻がやや分かりにくいものもあるが、寛容頂きたい。管見に入った徳川慶勝の最も古い舞台については前稿で触れたが、その後、彼は『梅若実日記』明治四年十一月二十一日の記事によって梅若舞台の舞台披露に華族として《三井寺》を舞っていることが知られている。そして華族中心に組織された能楽保存団体であ

一四

る「能楽会」の主要メンバーとなり、様々な能楽の催しに後援者として多額の援助を行った。慶勝は、徳川慶喜が静岡に去った後の明治初期の能楽衰亡期における能楽後援者として、能楽界に大きな恩恵をもたらした人物の一人であると言えよう。現在の段階では、まだこの「宝生流能造物図絵」を他の現存する造物図絵と比較検討していない。他流における造物と比較しての本書の特徴や、慶勝の能楽の稽古歴の尾張藩文書からの解明等は今後の課題としたい。

注

- (1) 拙稿「徳川慶勝写『宝生流能造物図絵』の紹介と翻刻(一)」、『椋山女学園大学研究論集』第54号 人文科学篇、椋山女学園大学、二〇二三年三月発行、一―一四頁
- (2) 『梅若実日記 第二巻』梅若実著、八木書店、二〇〇二年四月発行、三三〇―三三二頁

補記 貴重な伝書の閲覧・翻刻を許可下さった名古屋市蓬左文庫に感謝いたします。本稿は二〇二三年度科学研究費助成基盤研究(C)「尾張藩の芸能保護・統制の実態と東海地域の芸能に与えた影響についての基礎的研究」(研究代表者：飯塚恵理人、課題番号：22K00304)による成果の一部となります。

* 文化情報学部 文化情報学科